

太液芙蓉未央柳
 春風桃李花開夜
 宮葉滿階紅不掃
 夕殿螢飛思悄然
 耿耿星河欲曙天
 悠悠生死別經年
 能以精誠致魂魄
 排空馭氣奔如電
 兩處茫茫皆不見
 樓閣玲瓏五雲起
 雪膚花貌參差是
 聞道漢家天子使
 珠箔銀屏遙迤邐
 風吹仙袂飄飄舉
 梨花一枝春帶雨
 昭陽殿裏怨絕
 不見長安一塵霧
 釵留一股合一扇
 天上人間會見
 七月七日長生殿
 在地願為連理枝

芙蓉如面柳如眉
 秋雨梧桐葉落時
 梨園弟子白髮新
 孤燈挑盡未成眠
 鴛鴦瓦冷霜華重
 魂魄不曾來入夢
 為感君王展轉思
 升天入地求之遍
 忽聞海上有仙山
 其中綽約多仙子
 金闕西廂叩玉局
 九華帳裏夢魂驚
 雲鬢半偏新睡覺
 猶似霓裳羽衣舞
 含情凝睇謝君王
 蓬萊宮中日月長
 唯將舊物表深情
 釵擘黃金合分鈿
 臨別殷勤重寄詞
 夜半無人私語時
 天長地久有時盡

對此如何不淚垂
 西宮南苑多秋草
 椒房阿監青娥老
 遲遲鐘鼓初長夜
 鸞翠衾寒誰與共
 臨邛道士鴻都客
 遂教方士慙覓
 上窮碧落下黃泉
 山在虛無縹緲間
 中有仙人字太真
 中有一人字雙成
 輒教小玉報雙成
 攬衣推枕起徘徊
 花冠不整下堂來
 玉容寂寞淚闌干
 一別音容兩渺茫
 回頭下望人寰處
 鈿合金釵寄將去
 但令心似金鈿堅
 詞中有誓兩心知
 在天願作比翼鳥
 此恨綿綿無絕期

一 皇后中宮につぐ女官。「雄略天皇七年稚媛為女御、是始也。」(書紀)。桓武天皇の御代紀乙魚、百濟王教法を女御とし、後次第に格式上り女御より直に皇后にも上る。又上皇・皇太子の妃にも女御がある。
 二 女御につぐ女官。はじめ天皇のころもがえを司り、後天皇の獲所に奉仕する。
 三 桐壺更衣をいう。
 四 僧侶の安居の功を積んだ年を数える語を藤といひ、それを積むことの少ないもの。転じて、身分地位の低いもの。上藤の対。

五 三位以上の官人(參議は四位も)。公卿(公は攝關大臣、卿は大中納言參議)に同じ。
 六 殿上人(テンシヤウビト)(四位五位、(威人は六位も)の昇殿を許された人)に同じ。

いづれの御時にか女御更衣あまたさぶらひ給ひける中に、いとやむごとなききはにはあらぬが、すぐれて時めき給ふありけり。はじめより我はと思ひあがり給へる御方々、めざましきものにおとしめそねみ給ふ。同じほどそれより下藤の更衣たちは、ましてやすからず。朝夕の宮仕につけても、人の心をのみ動かし、恨みを負ふつもりにやありけむ、いとあつしくなりゆき、もの心細げに里がちなるを、いよいよあかずあはれなるものに思ほして、人のそしりをもえはばからせ給はず、世のためしにもなりぬべき御もてなしなり。上達部上人なども、あいなく目をそばめつゝ、いとまばゆき人の御おぼえなり。もろこしにもかゝることのおこ